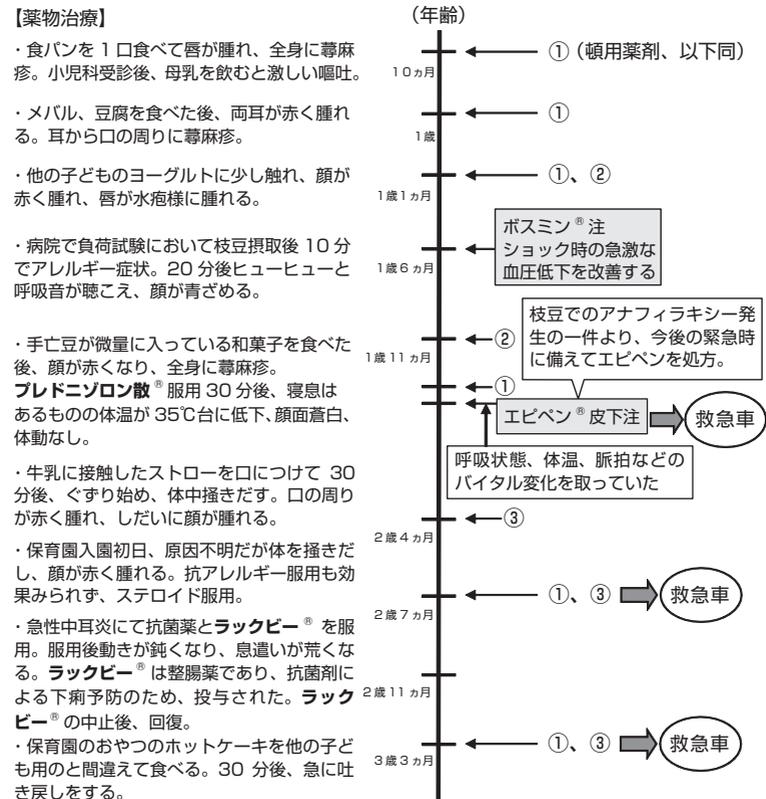


図 5.5 食物アレルギーに対する治療の例



【定期処方薬】

- ・クロモグリク酸 Na（インタール細粒）：ケミカルメディエーター遊離抑制剤
 - ・モンテルカスト Na（シングレア細粒）：ロイコトリエン拮抗剤
 - ・スプラタストシル酸塩（アイビーティードライシロップ）：Th2 サイトカイン拮抗剤
 - ・ブデソニド（バルミコート吸入液）：副腎皮質ホルモン剤
 - ・エピナスチン塩酸塩（アレジオンドライシロップ）：抗ヒスタミンH₁拮抗剤
- 数種のステロイド外用剤を使い分けて蕁麻疹に対処し、乾燥肌には白色ワセリンを塗布している。

【頓用薬剤】

- ① プレドニゾン（プレドニゾン散）：副腎皮質ホルモン剤
 - ② ヒドロキシジン塩酸塩（アタラックス-P細粒）：非ベンゾジアゼピン系抗ヒスタミンH₁拮抗剤
 - ③ エピナスチン塩酸塩（アレジオンドライシロップ）：抗ヒスタミンH₁拮抗剤
- （以下は適宜使用薬剤）
- プレドニゾン（プレドニゾン散）：副腎皮質ホルモン剤
- プロカテロール塩酸塩水和物（メプチン吸入液およびメプチンドライシロップ）：β₂アドレナリン受容体刺激剤
- セチリジン塩酸塩（ジルテックドライシロップ）：抗ヒスタミンH₁拮抗剤
- アドレナリン（エピベン注射液）：カテコールアミン系薬剤

図 5.6 エピベン[®]注射液使用の流れ



練習問題

問1 小児の特徴として正しいものの組み合わせはどれか。

- 患児の年齢によって薬用量が異なる。
 - 新生児では、生体の水分が全体の約60%である。
 - 新生児では、成人に比してアルブミン値が低い。
 - フェニトインの有効血中濃度は、成人と異なる。
- 1) (a,b,c) 2) (a,b,d) 3) (a,c,d) 4) (b,c,d) 5) すべて正しい

【解】3

【解説】新生児では、生体の水分は全体の約80%である。